

## <大会企画シンポジウム「初年次教育とチームづくり—動機づけとリーダーシップの側面から—」>

### 趣旨説明

大和田秀一  
酪農学園大学

各大学の初年次教育においては、学生主体のグループワーク中心のプログラムが多く実践されていますが、多くの場合、学生個々の関わり方には濃淡があると思います。学生の大学生活における“成功”を目指す初年次教育プログラムを、この目標にかなった取組みとするためには、グループをコミュニティへ、さらには共通の目標を達成すべく機能するチームへと発展させ、個々の学生の主体的関与を高めていく必要があります。

このチームづくりは種々の要素に左右されるものと思われませんが、今大会では動機づけとリーダーシップの側面に光を当てて検討を深めることとしました。就学意欲の低い学生に対しては如何に動機づけを図るかが課題であるでしょうし、高いモチベーションをもっている学生に対しては、それを損なわないような配慮が必要でしょう。また、リーダーに決定を委ねて、その他の者は指示を待てばよいという、リーダーシップに関する誤った通念も、チームの形成を阻んでいるのではないのでしょうか。

そこで、大会テーマを「初年次教育とチームづくり—動機づけとリーダーシップの側面から—」と設定し、同タイトルの大会企画シンポジウムを企画いたしました。シンポジストとして、教育心理学のお立場から動機づけ研究をされている名古屋大学の中谷素之先生、立教大学経営学部のBLP(ビジネス・リーダーシップ・プログラム)立ち上げを主導された日向野幹也先生(現早稲田大学)をお迎えし、動機づけとリーダーシップの側面から話題提供をいただきます。また、本テーマをより具体的に検討するために、二つの大会校企画ワークショップ「初年次教育と動機づけ—看図アプローチを活用してみよう—」と「初年次教育とチームづくり—HUG(避難所運営ゲーム)を例として—」を設けました(注記：残念ながら双方とも中止)。

如何にして、学生個々が初年次教育プログラムに没頭する状況を創出するか、主体的で責任ある参加をするように促していくか、この昔からある課題に今も頭を悩ませている教職員は多いと思います。シンポジウム講師による話題提供と参加者間の実践・研究交流を通して、動機づけとリーダーシップに関する私たちの理解が深まり、参加者それぞれが各大学での取組みに活かすことの出来るヒントを得て帰途に就くことができた、そんなシンポジウムと大会になれば幸いです。